

後輩の皆さん 英語の勉強の大事さを痛感しています！！

—商船高専卒業生より

私は、商船高専を卒業して瀬戸内海の港にある東洋信号通信社が請けているポータルラジオで勤務しています。当社であった七呂さんの講話を聞いたあと懇親会の席で先輩である七呂さんと高専生の英語力の事が話題となりました。

商船高専生が外航海運会社に就職を希望しても英語力が劣るが故に夢を絶たれている事や内航船でも AIS が装備され船名がわかるようになって外国船から VHF で呼ばれるケースが増え、内航船に乗船しても決して英語は無縁といいきれない状況になっています。

私自身日々の勤務で英語に悩んでいますし、七呂さんから後輩のためにも事実を訴えろと言われ、私のような若輩者でも後輩のために少しでも役に立てればと思い、今回書かせていただきました。

私は商船学校を卒業生しましたが、最初から船には乗らず、船に関する職場で仕事をしています。主な業務は、港務通信として VHF 国際無線電話を使用して港に入港する船舶とやり取りをしています。外国船とは勿論英語での通信となりますが、現在働いている中で思うことがあります。

それは、「英語が全然できないということです」。

商船学校でも英語は学んだので専門用語の単語の“部分・部分”は理解出きますが、外国人船員が喋っている英語の全てを聞き取れることは殆どありません。特に英語の“なまり”がひどいと何回か聞き直してしまいます。その中でも中国人や韓国人の船員さん達は、独特の発音のため苦労した記憶が多いです。

相手と話していて何となく言いたい内容が分かっていても、きれいに文章立てて返事を返すことができないことが多かったです。自分なりに考えて組み立てても話終わった後に先輩から文法がおかしい、イントネーション、区切る場所がおかしいと注意されることが多々あります。

さらに外国人船員に英語が正しくても通じない場合があり、相手が分かるまで同じ意味で違う文章の言い回しを何回か伝えていますが、自分なりに勉強しても実践の場ですぐに通じるわけでもなく何回か試行錯誤しながら伝えているのが現状です。

学校生活を振り返って、もう少し英語を勉強しておけば良かったと思います。外国航路を目指す学生であれば必須ですし、今後益々英語を使う機会は増えるので、内航を目指す人も陸上企業を目指す人も全く同じです。

後輩である皆さん、是非英語力をつけて、私のように「英語ができない」と悩むことがないように日々の英語勉強に励んでください。

